

関連項目：指導体制プラン②、教育活動プラン①、⑥

保護者とともに、よさを賞賛する「きらきらキッズカード」の配布

目的

児童の意欲や自尊感情を高めるためにカードを活用しています。児童のよさを本校の教員がカードを使って賞賛することで、児童は自分自身の行為について自覚し、今後も努力を続けようとしています。

内容

● カードの作成

「きらきらキッズカード」は、清掃やあいさつ、学習等において積極的に児童のよさを賞賛することで自尊感情を高めるために平成21年度から活用しています。これを通して、どのような行動や考え方をすることが生き方として重要であるかの価値観を育成しています。学級担任、また関係する教員が、児童のよさにおいて一層伸ばすべきものや、児童に身につけさせたいものを協議し、担任が児童との面談の中でそれを伝え、そのような態度が身に付くよう意欲を高めています。以降、望ましい姿が表れた時にカードを配布しています。



きらきらファイル

● 学校と家庭の連携による活用の工夫

本年度から、子どもたちの生きる力を育むために、学校・家庭・地域が連携することで、より効果が得られるとの考えに立ち、保護者にも子どものがんばりを見つけ配布するように依頼して、家庭でのよさを賞賛してもらう取組を行っています。学校と家庭が一緒になって児童を育てる体制づくりについて、保護者の理解が高まってきたことが伺えます。記入に当たっては、家庭の事情を考慮して、1枚でも構わないので渡してもらえるようはたらきかけています。カードをファイルに綴じることで、なくさずに管理、保存するとともに、児童が自分自身を見つめるものとしたり、教師と保護者の情報交換にも役立てたりしています。

成果（保護者意見より）

○家庭学習や手伝い等の習慣化が図れました。

・初めはカードが欲しいために行動している面があったが、誉められることによって、どのようにしたらよいかを理解できるようになってきた。カードに関係なく、常に周囲に気配りができる人間になってくれたらと思う。

・カード欲しさの手伝いから、少しずつ、自分ができることが分かってきたように感じる。誉めて、伸ばして、こちらも家事などが助かったりするのでよかった。

○誉めることの大切さについて、保護者の理解が深まりました。

・怒ることが多かったが、子どもを誉めるとうれしそうにしたので誉めることの大切に気付いた。

・誉めて伸ばすことは心がけているがなかなかできない。子どものよい所を伸ばしてやれるように思う。

・誉めて育てる大切さは分かっているが叱るほうが多い。カードを使うことで、子どものよさを考える時間が持てる。

・誉めて伸ばす方が親子ともにいい関係が築けるのではないかと感じてきている。

○子どものよさを保護者が再認識できました。

・誉められることによって生まれる自信が大きな飛躍をもたらすことを実感する。誉めるという視点を、学校と共有でき、子どもの自信につながっている。

・改めて子どもの良さを認識できた。カードに書くことで、親が思っている以上に素晴らしい能力を持っていることに気付いた。